

102-63

問題文

がん性疼痛の病態及び薬物治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 速放性製剤のレスキュー投与は、突発痛に対して用いられる。
2. WHO方式がん疼痛治療法では、痛むときに素早く鎮痛薬を投与することを基本とする。
3. 骨転移による限局的な鋭い痛みのはほとんどは、神経障害性疼痛に分類される。
4. 軽度の痛みであっても、アセトアミノフェンは用いない。
5. 口腔粘膜吸収フェンタニル製剤は、過量投与による呼吸抑制を起こさない。

解答

1

解説

選択肢 1 は、正しい選択肢です。

選択肢 2 は、WHO式原則に反します。

痛みが出てから鎮痛薬を投与するという頓用方式ではなく、時刻を決めた一定間隔で投与をするのが原則です。加えて、突発痛に対し、レスキュー薬を用いて痛みをコントロールします。

選択肢 3 ですが

痛みは大きく、侵害受容性と、神経障害性にわかれます。骨転移による局所的な鋭い痛みは、侵害受容性の痛みです。

選択肢 4 ですが

鎮痛薬が投与されていない軽度の痛みのある患者には、アセトアミノフェン使用が強く推奨されます。

選択肢 5 ですが

呼吸抑制などに注意が必要です。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 1 です。